



## 子ども：お誕生会事情

げんか まきこ  
源河 真規子

欧州連合日本政府代表部・一等書記官

「5歳になると、お誕生会に呼ばれる機会が増えるわよ。」

と、赴任した当時先輩ママから教わった。実際、うちの子も子どものクラスメートが5歳になる年から招待状をもらうようになった。開催は幼稚園や学校が午前中だけの水曜か、休みである土曜・日曜。時間は、14時から17時までの3時間程度である。親が会場まで子どもを送ってきて、また終わる頃になると迎えに行く。水曜の場合は、そのまま主催者の親が放課後会場まで連れて行く場合もある。会場は、博物館、室内遊戯場、ファーストフードショップ、農場、自宅等様々。自宅で開催する場合も、親が近くの公園に連れて行って外遊びをしたり、ピエロや手品師を呼んで子どもと遊んでもらったりする。

広い庭付きの一軒家に住む子どもも、なぜかお誕生会は外の会場を借りて開くことが多い。不思議に思って友達に尋ねてみたら、

「自宅でお誕生会を開くと、掃除やら後片付けやら大変だけれど、会場を借りるととっても楽。親も誕生会自体を楽しむことができる。」「我が家には庭があるけれど、誕生日の日に晴れるとは限らない。雨だと家の中を10数人の子どもが走り回って大変でしょう。その点、会場なら雨の日も遊べるようになっている。」「自宅に大勢の子を呼ぶのは大変だけれど、外の会場ならたくさん呼べる。」「外の会場で遊んでくれるお姉さんも雇えば、親の言うことはなかなか聞かない子どもも、お姉さんの言うことは不思議と聞くので統率が取

れる。」とのこと。なるほど、と思った。

子どもが誕生会の招待状をもらう度に、招待状に記載されたウェブサイト調べてみると、「子どもの誕生会」というコーナーがしっかりとあるのを発見。場所によって内容の違いはあるが、招待状、施設入場料、遊具使用料等がセットになっている。会場は完全に貸し切りの場合も、ケーキを食べるコーナー（部屋の片隅に机と椅子を並べた程度）だけ借りて後は一般の入場者と一緒に遊ぶ場合もある。サーカス場や劇場で誕生会をする場合は、途中で場所を移動して鑑賞し、また元いた部屋に戻ってくる。遊んでくれるリーダー（お姉さん又はお兄さん）が料金に含まれている場合もあり、この場合は、リーダーが主導してゲームや鬼ごっこをしたり、お誕生日ソングを一緒に歌ってくれる。親は、それを補助する程度で足りる。ケーキや飲み物まで全て含まれている場合もあれば、ケーキと飲み物は家から持参する場合もある。

毎回子どもは招待状を嬉しそうに持って帰ってくる。「ちゃんの誕生日に呼ばれたの」と。幼稚園や小学校は1クラス20数名。全員を招待する家庭は少なく、人選して招待状が手渡される。学校によっては「招待状を出す場合は、クラスの全員を招待して下さい」とお願いしているところもあるようだが、全員を招待できるスペースと面倒を見る十分な大人を確保するのは容易ではない。水曜の降園後、直接お誕生会会場に向かったために、呼ばれなかった子が「何処行くの？」と羨



ましように聞いてきたこともあった。娘と買い物に出かけて、たまたまお誕生会の外遊び場面に遭遇し「私は呼ばれなかった。」と悲しそうにつぶやかれたこともあった。

娘が6歳の誕生日を迎えたので、我が家でも初めて誕生会を企画した。できる限り、親の負担を減らすために誕生会のパックを利用。

- ・一般の入場者や他のお誕生会と一緒にだと、どの子が自分の家の招待客か区別がつかなくなるので貸し切り状態の会場であること、
- ・親の片言の伝言ではとても子ども達と遊べないので、遊んでくれるリーダーが料金に含まれていること、
- ・自宅から近いこと
- ・今まで友達に呼ばれた会場ではないこと（娘の強い要望）

等を条件に会場を探し、トランポリン、室内用遊具、机と椅子が配置された部屋（小屋？）と広い庭のある会場にした。子どもが20名までの料金が基本で、21名以上になるとリーダーをもう一人増やすことが必要とされていた。子どものクラスは23名、とても全員は呼べない。9月から地元の小学校に入学したが、幼稚園とは同じ敷地内であるため、クラスメートの多くは幼稚園時代から一緒である。幼稚園から一緒の子が娘を含めて16名。幼稚園が一緒に別の小学校に進学した仲良しが2名。まだ小学校に入学して1ヶ月も経っていないので、ここが1つの良い区切りのような気がした。ただ、今でも本当にクラス全員を招待しなくて良

かったのかはわからない。招待状を出しても「本当に来てくれるかな」と心配だったが、1名を除いて全員が当日参加してくれてホッとした。子ども達はお誕生会が大好きなようで、招待状を渡した後「後、何日でお誕生会なの？」と毎朝のように尋ねてくる子もいた。何よりも心配だったのが当日のお天気で、前日はたくさんのお天気を自宅の窓につるした。その甲斐あってか、快晴。9月末であったが半袖で過ごせるくらいの陽気だった。

リーダーのお姉さんの活躍あって、庭で鬼ごっこやベルギー版「だるまさんが転んだ」が繰り広げられた。別の小学校に進学した子が誕生会に現れると、ひととき歓声が上がった。日本、ベルギー、フランス、ロシア、ルーマニア・・・と子ども達の国籍は様々。時にははぶつかった、玩具を取られたと言い争いが繰り広げられたが、陽光の中走り回る子ども達の姿は楽しそうだった。プレゼントは最後に皆の前で一つ一つ開けた。なぜか男の子からのプレゼントは人形が多い。包みを開けるたびに、子ども達が乗り出してきて「わぁー」と声をあげた。

お土産に、キャラクター模様の小さな袋に詰めたお菓子を渡すのが慣例である。キャンディー、チョコレート、風船等の他「何か日本的なものを！」と思って折り紙で作った手裏剣と奴さんを入れた。

親子共に、貴重な誕生会経験であった。